

講義の分野別聴解教材の開発 —条件表現に着目して—

日比伊奈穂^{*1}・阪上彩子^{*2}
Email: i-hibi.cjlc@osaka-u.ac.jp

*1: 大阪大学日本語日本文化教育センター

*2: 奈良教育大学国際戦略センター

◎Key Words 分野別講義聴解, 条件表現, ウェブ教材

1. はじめに

講義は専門的な話をわかりやすく説明するものであり、用語の定義やある仕組みの解説など、さまざまな説明がなされる。そのため、講義で説明をする際に用いられる表現もさまざまなが、その一つに条件表現がある。講義ではさまざまな分野で、条件表現を用いて、条件とその条件の下で成立することが述べられる。そのため、講義の聴解には条件の理解が重要であるが、日本語学習者は条件を正しく理解していないことがある。このようなことから、講義で条件が含まれる文を正しく聞きとれるようにするための聴解教材を開発した。本稿では、開発した教材の作成過程について具体的に述べる。

2. 講義での条件が含まれる文

2.1 講義で使われる条件表現

条件表現の代表的なものとして、「と」「ば」「たら」「ても」が挙げられる。「と」「ば」「たら」は順接条件を表し、「ても」は逆接条件を表す。これらの表現の前に条件を述べ、そのあとにその条件の下で成立することを述べる。

この条件表現は講義の分野によって使われる表現に特徴がみられる。大きく分けて、理系では「と」がよく用いられ、文系では「ば」「たら」の使用が多くなる。これは、日比・高山 (2022) にあるように、まず、理系の講義ではある条件下での結果や実験からわかった事象が説明されることが多く、結果に焦点を置くため、「と」がよく用いられると考えられる^①。一方、文系の講義では後件の事態が成立するのはどういう条件のときかが説明されることが多く、条件の内容に焦点を置くため、「ば」「たら」がよく用いられる^①。

2.2 条件が含まれる文の聞きとりの難しさ

講義の具体的な説明でよく用いられる条件表現であるが、非母語話者はこの条件が含まれる文の聞きとりが難しいことが明らかになっている (久保・高山 2022)^②。日本語の条件表現である「と」「ば」「たら」「ても」はいわゆる初級の段階で学ぶ項目であり、講義を聞くレベルにある学習者にとって、特に難しい表現ではない。それにもかかわらず、条件表現を聞き逃していたり、順接条件の「ば」「たら」と逆接条件の「ても」が聞き分けられず、それぞれ逆の意味で理解しているといったことがある。久保・高山 (2022) は、学習者は条件表現に気づかず、条件を示している文を誤って断定の文として理解することがあると述べている^②。

3. 講義を聞く教材の作成

日本語学習者用の講義聴解の教材はこれまでにいくつか発行されている。近年発行のものとしては、東京外国語大学留学生日本語教育センターが開発した『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義』をはじめとしたシリーズがある。また、講義ではないが、まとまった話を聞く教材として、瀬川・紙谷による『ニュースの日本語 聴解 50』などのシリーズもある。どちらの教材も内容理解の問題が中心となっており、聞きとりのポイントは示されているものの、それを練習する問題は含まれていない。野田・中尾・萩原 (2022) は、現行の聴解教材について、「どうすれば聞いた内容を理解できるようになるかという情報が示されていない」^③ことが問題だと指摘している。その上で、「今後は、どうすれば聞いた内容を理解できるようになるのかという情報が示されており、その情報を活用して聞いた内容を理解する練習が提示されている聴解教材の開発が必要になる」^③と述べている (野田・中尾・萩原 2022)。

こうしたことから、野田・中尾・萩原 (2022) の指摘を踏まえた聴解のウェブ教材を開発した。一般教養の講義を想定し、題材に文系は著作権の講義、理系は体内環境維持についての講義を用いた。

教材は「日本語を聞きたい!」のサイトにて、次のページで公開している。

<https://www.nihongo-tai.com/japanese/kiku/>

3.1 講義内容の調査

教材を作成するにあたり、講義で用いられる条件表現を調査した。オンラインで公開されている講義から、体内環境維持についての講義 5 本、著作権についての講義 10 本を調査した。この調査では「場合」も含めた。「場合」は条件表現ではないが、条件を表すときに使われることもあるためである。それぞれの講義での条件表現の出現比と出現数は以下のとおりである (カッコ内は出現数)。

表 1 講義での条件表現の出現比と出現数

	体内環境維持	著作権
と	60%(187)	10%(62)
ば	4%(12)	23%(148)
たら	10%(30)	24%(158)
場合	14%(44)	27%(172)
ても・でも	12%(38)	16%(106)

表1の結果から、体内環境維持の講義では「と」が圧倒的に多く、「ば」が「と」以外の表現と比べても少ないことがわかる。一方、著作権の講義は「と」の使用が少なく、他の表現は広く使われている。ただ、使用例を見ると、順接条件の「ば」と「たら」に関しては、法律にかかわる説明では「ば」の使用が多く見られる。(1)は「ば」が使われている例、(2)は「たら」が使われている例である。

- (1) 不特定、つまり一般の人。ね、多数、つまり大勢。このどちらかを満たせば、著作権では、公の上演、演奏と言うんです。(著作権の必須知識)
- (2) だから、一般の人だったら少数、関係者ばかりでも大勢いたら、それで、公の上演演奏です。(著作権の必須知識)

「たら」は法律の説明で用いられることもあるが、それ以外の具体的な説明や雑談などでも用いられることが多い。

3.2 聴解技術の抽出

条件が含まれる文が聞きとれるようになるための技術として、以下の技術を抽出した。

- (3) 条件とその条件のときに成立することを聞きとる
- (4) 「ても」「でも」の場合にはもう一つの条件が含まれていることを理解し、「ても」「でも」とその他の条件表現を聞き分ける
- (5) 「ても」「でも」に含まれるもう一つの条件とその条件のときに成立することを聞きとる
- (6) 順接条件と逆接条件の2つが含まれている内容では順接条件のほうが必要な条件であることを理解し、順接と逆接を聞き分け、かつ、必要な条件を聞きとる

(3)の技術は講義を聞いている中で、条件表現に着目させるためのものである。2.2で述べたように、学習者は条件表現を聞き逃していることがある。そのため、まずは条件表現に着目させる必要があり、聴解技術として取り上げた。

(4)の技術は、逆接条件を表す「ても」「でも」が他の条件表現とは異なる意味を持つことを理解させるためのものである。同じく2.2で述べたとおり、学習者は順接条件と逆接条件の表現を聞き分けていないことがある。そのため、「ても」「でも」で表される条件は他の表現で表される条件とは異なることを理解し、他の条件表現と区別して聞きとる必要があり、聴解技術として取り上げた。

(5)の技術は、「ても」「でも」で表される条件の意味を理解させるためのものである。「ても」「でも」は言葉で表される条件のほかに、それとは逆の意味の条件が含まれている。そのため、含意されている条件を理解する必要がある、聴解技術として取り上げた。

(6)の技術は、順接条件と逆接条件があるとき、順接条件のほうが必要な条件であることを理解させるためのものである。逆接条件が表す意味は、「そのような条件が満たされていれば、成り立たないと思うかもしれないが、実際にはそのような条件とは関係がない」ということである(野田・中尾・萩原 2022)³⁾。そのため、あることが成

立するための条件としては、逆接条件より順接条件が重要となる。このようなことから、(3)から(5)までの技術を生かし、順接条件と逆接条件を聞き分け、順接条件をききとるための技術として取り上げた。

3.3 教材の構成と特徴

作成した教材は、大学の授業で講義を聞いているという設定にした。理系は体内環境維持についての講義、文系は著作権についての講義である。目標は、それぞれの講義で条件とその条件のときに成立することを聞きとれるようになることとした。

構成はどちらの教材も同じである。3.2の(3)～(6)に示した聴解技術に、それぞれの分野でよく使われることばを学ぶ技術を加え、全部で7種類の技術(以下、「スキル」)を学ぶ構成とした。各スキルは以下のとおりである。

- (7) スキル1・2: その分野の講義でよく使われることばを聞きとる
- スキル3: スキル1・2で学んだことばが含まれる文を聞いて理解する
- スキル4: 条件とその条件のときに成立することを聞きとる
- スキル5: 「ても」や「でも」から、ほかにもう1つの条件も含まれていることを聞きとる
- スキル6: 「ても」や「でも」から、もう1つの条件とその条件のときに成立することを聞きとる
- スキル7: 「ば」で表される条件と「ても」で表される条件があるとき、必要な条件を聞きとる

各スキルのタイトルにはどのような聞きとりの技術を学ぶかを示した。そして、練習に入る前に、各技術の説明をするページを設けた。練習問題は各スキル10問で、2択問題である。不正解を選んだ場合は解説が示されるようにした。

教材はすべて、日本語のほかに、英語、中国語(簡体字と繁体字)、韓国語でも学べるようになっている。図1に英語版を示す。

Understand the condition

Goal

To be able to understand the condition and what is established when that condition is met in the lecture on copyright.

Setting

You are in the class, listening to the lecture on copyright. Understand the condition and what is established when that condition is met in the lecture on copyright.

Skill 1	Learn 補足 (supplementary note) and 範囲内 (within the scope)
Skill 2	Learn 得る (obtain) and アップする (upload)
Skill 3	Understand the explanation of copyright
Skill 4	Understand the condition and what is established when that condition is met by listening to the following expressions ば (if) and ても (even if)
Skill 5	Understand that another condition is included by listening to the following expressions ても (even if) and ども (whether)
Skill 6	Understand another condition and what is established when that condition is met by listening to the following expressions ても (even if) and ども (whether)
Skill 7	Understand the necessary condition when there are conditions expressed by ば (if) and ども (even if) .

図1 英語版タイトルページ

以下、各スキルについて詳細を述べる。スキル1～3は各分野のことばの聞きとり練習であるため、ここでは割愛する。

3.3.1 条件とその条件のときに成立することを聞きとるスキル

このスキルでは、聞きとる必要がある条件表現を提示した。3.1に述べたように、文系の講義と理系の講義では、使われる条件表現が異なる。そのため、著作権の講義と体内環境維持についての講義の教材で、取り上げる表現を異なるものにした。(8)は体内環境維持の教材の解説ページの説明である。■は音声も聞けるようになっている。

(8) 次の表現の前に言われる条件のとき、次の表現の後に言われることが成立します。次の表現から、条件とその条件のときに成立することを聞きとります。

- と
- たら
- 場合
- ても
- でも

次の音声では、「と」の前に言われる「女性ホルモンが足りない」とき、「と」の後に言われる「女性の生殖機能がなくなる」ことが成立すると言っています。
■ 女性ホルモンが足りないと、女性の生殖機能がなくなります。

著作権の教材もはじめの説明は同じであるが、条件表現以下が異なる。

- (9) ■ ば
■ たら
■ 場合
■ ても
■ でも

次の音声では、「ば」の前に言われる「作った人の個性が出ている」とき、「ば」の後に言われる「図表も著作物になる」ことが成立すると言っています。
■ 作った人の個性が出れば、図表も著作物になります。

【スキル4】「ば」や「ても」から、条件とその条件のときに成立することを聞きとる

次の表現の前に言われる条件のとき、次の表現の後に言われることが成立します。次の表現から、条件とその条件のときに成立することを聞きとります。

■ ば
■ たら
■ 場合

■ ても
■ でも

次の音声では、「ば」の前に言われる「作った人の個性が出ている」とき、「ば」の後に言われる「図表も著作物になる」ことが成立すると言っています。

■ 作った人の個性が出れば、図表も著作物になります。

図2 スキル4の解説

次に練習の例を示す。練習の形式はどちらも同じである。1～3 文程度の短い音声聞き、条件と成立することを聞きとる。(10)の♪マークは聞きとる音声を文字化したものである(以下同様)。この練習では、条件が含まれる文の聞きとりの基本を学ぶ。

(10) 条件と、その条件のときに成立することは何ですか。
♪ 著作権者が持つ権利のうち、著作権は譲渡できますが、著作権を譲渡しても、著作者人格権は残ります。

- 1 条件：著作者人格権が残る
成立すること：著作権を譲渡できる
- 2 条件：著作権を譲渡する
成立すること：著作者人格権は残る

【スキル4】「ば」や「ても」から、条件とその条件のときに成立することを聞きとる

【練習3】

条件と、その条件のときに成立することは何ですか。

1 条件：著作者人格権が残る
成立すること：著作権を譲渡できる

2 条件：著作権を譲渡する
成立すること：著作者人格権は残る

図3 スキル4の練習例

ただし、練習問題での各条件表現の出題数は教材によって異なる。3.1の表1に示した調査結果から、それぞれの教材での条件表現の出題数を、以下のよう設定した。

表2 条件表現の出題数

	体内環境維持	著作権
と	5	
ば		4
たら	1	1
場合	1	1
ても	2	3
でも	1	1

3.3.2 「ても」や「でも」から、ほかにもう1つの条件も含まれていることを聞きとるスキル

このスキルで学ぶ聴解技術は、「ても」「でも」とその他の条件表現を聞き分けることである。3.1 で見たように、体内環境維持についての講義での「ても」「でも」の出現数は多くない。しかし、「ても」「でも」で表される条件は、他の条件表現で表される場合とは異なる意味を持つため、出現数が少ないとはいえ、やはり聞き分ける必要がある。そのため、体内環境維持の教材でもこの技術を取り入れることにした。

(11)は著作権の教材の解説ページの説明である。以下、例文を使つての解説部分は省略する。

(11) 「ても」や「でも」が使われているとき、「ても」や「でも」の前に言われる条件のほかに、もう1つの条件も含まれています。一方、「ば」や「たら」、「場合」

が使われているときは、「ば」や「たら」の前に言われる条件だけで、ほかに条件は含まれていません。「ても」や「でも」から、もう1つの条件も含まれていることを聞きとります。

次に練習の例を示す。1 文程度の短い音声聞き、条件表現を聞きとり、ほかの条件が含まれているかいないかを選択する。この練習では、「ても」「でも」か、それ以外の条件表現かを聞き分ける技術を身につける。

- (12) ほかにもう1つの条件も含まれていますか。
♪ただし、映画は除きます。映画は、非営利で無料でも、許可なく貸出することはできません。
1 含まれている
2 含まれていない

3.3.3 「ても」や「でも」から、もう1つの条件とその条件のときに成立することを聞きとるスキル

このスキルで学ぶ聴解技術は「ても」「でも」に含まれるもう一つの条件とその条件のときに成立することを聞きとることである。(13)は体内環境維持の教材の解説ページの説明である。

- (13) 「ても」や「でも」に含まれているもう1つの条件は、「ても」や「でも」の前に言われることとは逆の意味の条件です。その条件のときに成立することは、「ても」や「でも」の後に言われることです。「ても」や「でも」から、もう1つの条件とその条件のときに成立することを聞きとります。

次に練習の例を示す。1～2 文程度の短い音声聞き、「ても」や「でも」に含まれるもう1つの条件を理解し、その条件のときに成立することを聞きとる。この練習では、「ても」「でも」に含意される条件を聞きとる技術を身につける。

- (14) もう1つの条件と、その条件のときに成立すること何ですか。
♪上位から甲状腺ホルモンの量を少なくするよう指令が出されても多いままである、これがバセドウ病という病気のときに起きていることです。甲状腺自身が大きくなってしまっているから、甲状腺ホルモンの量が減らないんですね。
1 もう1つの条件：甲状腺ホルモンの量を少なくするよう指令が出されない
成立すること：甲状腺ホルモンは多いままである
2 もう1つの条件：甲状腺ホルモンの量を少なくするよう指令が出される
成立すること：甲状腺ホルモンは多くない

3.3.4 「ば」で表される条件と「ても」で表される条件があるとき、必要な条件を聞きとるスキル

このスキルで学ぶ聴解技術は順接条件と逆接条件の2つが含まれている内容では順接条件のほうが必要な条件であることを理解し、順接と逆接を聞き分け、かつ、必要な条件(順接条件)を聞きとることである。順接条件の例

として、著作権の教材では「ば」「たら」「場合」、生物学の講義では「と」「たら」「場合」とした。(15)は著作権の教材の解説ページの説明である。

- (15) 「ば」「たら」「場合」で表される条件と、「ても」「でも」で表される条件があるとき、「ば」「たら」「場合」で表される条件を聞きとります。「ば」「たら」「場合」で表される条件のほうが必要な条件です。

次に練習の例を示す。2～3 文程度の短い音声聞き、必要な条件を聞きとる。これまでの聴解技術を総合的に用いて、条件が含まれる文を聞きとる総合練習を行う。

- (16) 必要な条件は何ですか。
♪人の著作物を自分の作品の中で紹介することは認められています。つまり引用です。補足程度に載せるんだったら、著作者の許可を得なくても、使うことができます。
1 著作者の許可を得ないこと
2 補足程度に載せること

4. おわりに

以上、講義で条件が含まれる文を正しく聞きとれるようにするための聴解教材について、その作成過程を紹介した。講義内容を調査し、教材には文系と理系で使われる条件表現の違いを取り入れた。また、順接条件と逆接条件の意味の違いから、それぞれの条件を聞きとる技術を抽出し、その技術を身につけられるようにした。

講義の聴解技術が学べる教材はまだ少ない。今後も講義内容の分析を行い、講義聴解に必要な表現や技術の抽出を行っていく必要がある。

謝辞

この論文は、JSPS 科研費 22H00669 の研究成果である。

参考文献

- (1) 日比伊奈穂・高山弘子：“講義で話される内容と表現”，野田尚史・中尾有岐編著，日本語コミュニケーションのための聴解教材の作成，ひつじ書房，pp.119-133 (2022)
- (2) 久保輝幸・高山弘子：“学習者が講義を聞く難しさ”，野田尚史・中尾有岐編著，日本語コミュニケーションのための聴解教材の作成，ひつじ書房，pp.135-146 (2022)
- (3) 野田尚史・中尾有岐・萩原章子：“講義を聞く教材の作成”，野田尚史・中尾有岐編著，日本語コミュニケーションのための聴解教材の作成，ひつじ書房，p.147-165 (2022)
- (4) 東京外国語大学留学生日本語教育センター：“留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義”，スリーエーネットワーク (2019)
- (5) 瀬川由美・紙谷幸子：“改訂版 ニュースの日本語 聴解 50”，スリーエーネットワーク (2023)

引用資料

『「著作権の必須知識を今日 90 分で身につける！」』福井健策，KeioOpenLearning, 2017.
[<https://youtu.be/0hQBcPTRUog>]
(2025 年 6 月 23 日最終閲覧)